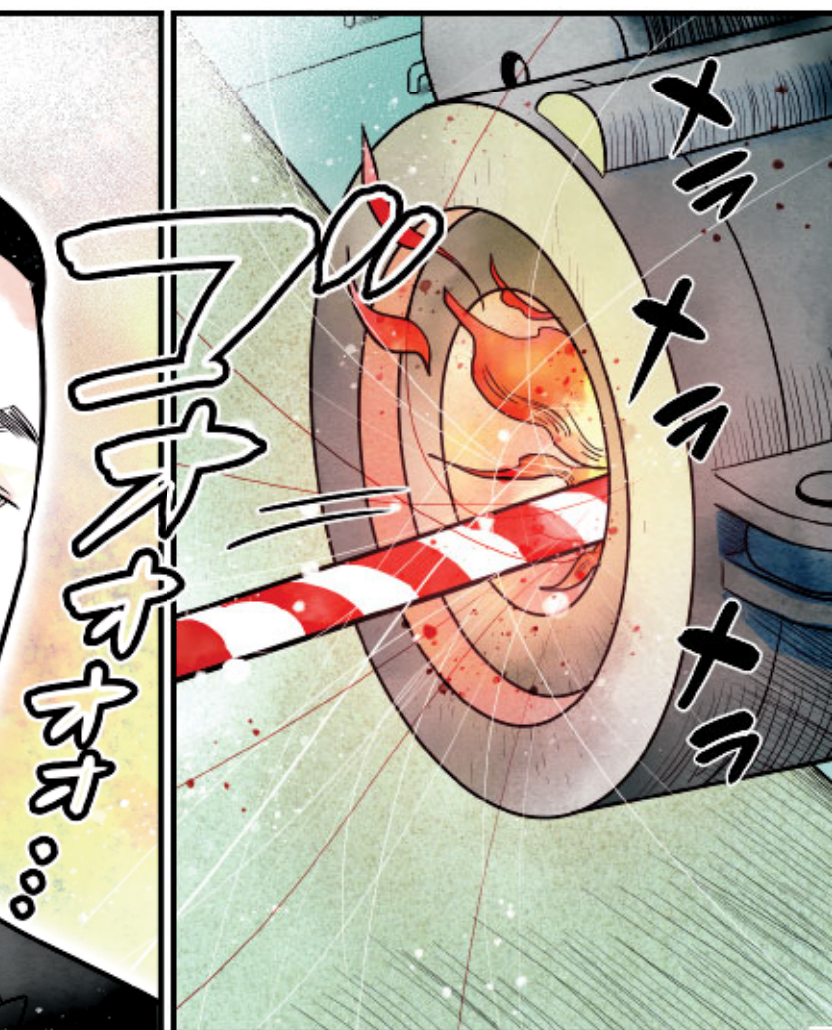
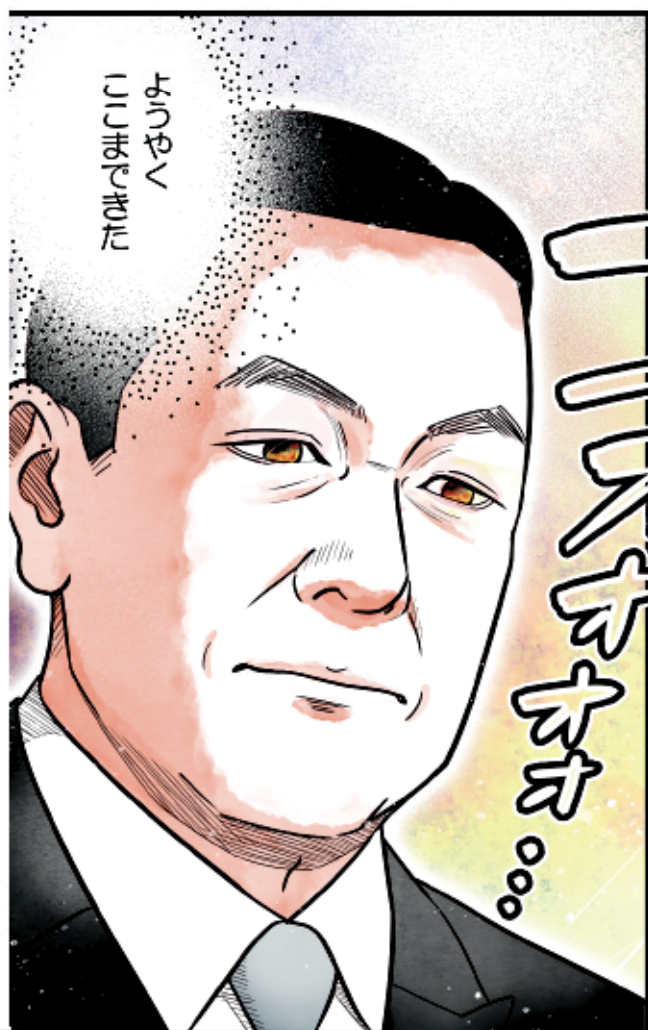
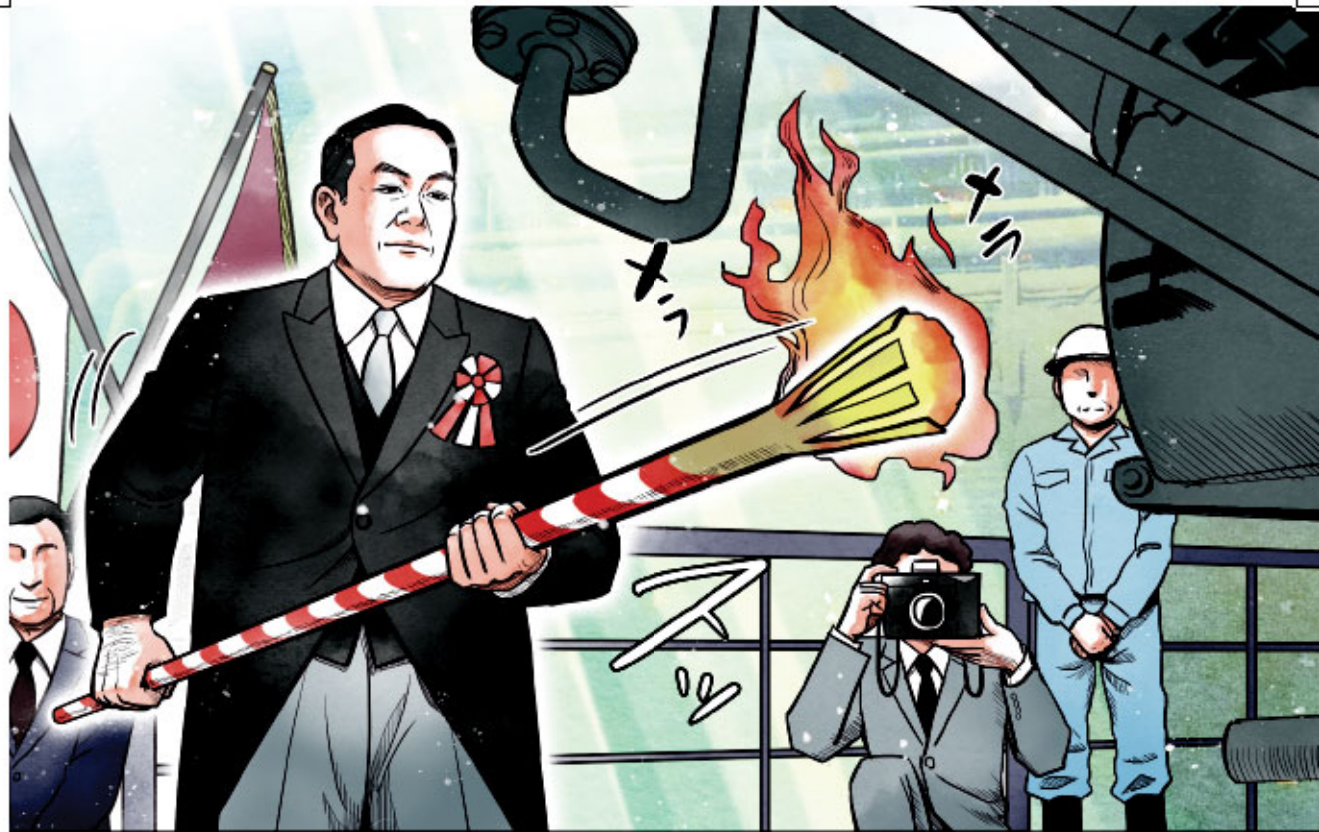


1953(昭和28)年6月17日



日本の高度経済成長を 支えた鉄人

作画 アマツトル・キナ





1945(昭和20)年
徹底した焼夷弾攻撃で
廃墟と化した神戸のまち



にしやま やたろう
西山 弥太郎

川崎重工^{ふかさい}荻合工場
鋼板の生産を行っていたが
戦中は軍需工場に指定され
軍からの指示で
戦艦用の厚板などを
生産していた



戦争をやったのも
負けたのも
金がなかったからだ

これからは貿易だ

日本の将来は製鉄だよ



今の製鉄業界をみると
民間会社は造船と
製鉄のように
多角経営して
いるところばかり
じゃないか



製鉄部門の
独立は必須です

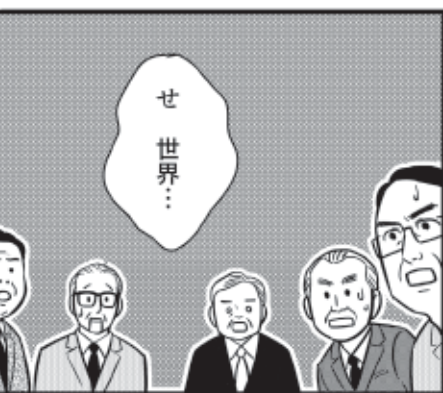
戦後の日本の生きる道は
重化学工業による
貿易立国であり
そのためには安価で
高品質な鉄を
つくる必要があります

安定経営のために多角的に
やるうというのは一理あるが
足の引っ張り合いに
なってしまうこともある



西山さん
そうはおっしゃるが…

敗戦後の日本は
軍需ぐんじゆがないと言われますが
世界全体で鉄の需要じようぎやうが
減るわけではありません



せ 世界…

世界水準の
鉄鋼一貫製鉄所てつこういっかんせいそをつくれれば
必ずやっていけるんです

※鉄鋼一貫製鉄所とは鉄鉱石から鉄を取り出し
鋼板や鋼管などの製品まで一貫してつくる製鉄所のこと





川崎製鉄創立記念式典

同じころ
神戸の川崎重工業から
製鉄部門が分離し
川崎製鉄が誕生
初代社長となった西山

：我々は伝統である
誠実と敢闘の精神をもって
難局を克服し

発展のために
覚悟を新たに
しなければならぬ
と思うのであります



条件は
 広くて地盤が
 しっかりした土地

そして鉄鉱石や石炭を
 運んで来る船のための港湾

さらに
 大量に消費する水と
 十分な電力



西山は
 会社設立と同時に
 鉄鋼一貫製鉄所の
 用地探しに着手していた

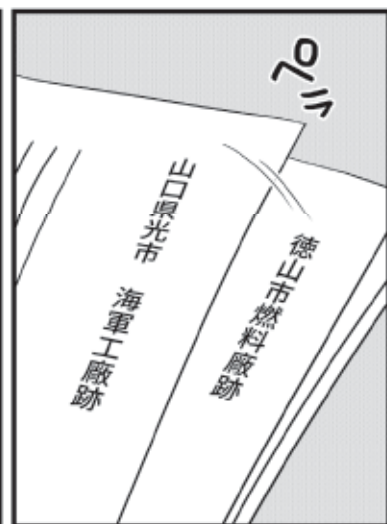


防府もいいんだが
 電力供給に
 不安があるなあ…

私は山口の防府が
 いいと思うんですが

どの候補地も
 帯に短し襷に長しだな

うん…



なら
 千葉県側ですね

神奈川県側は
 もういっぱいなので



瀬戸内海だけじゃなく
 東京湾も調べて
 みようじゃないか



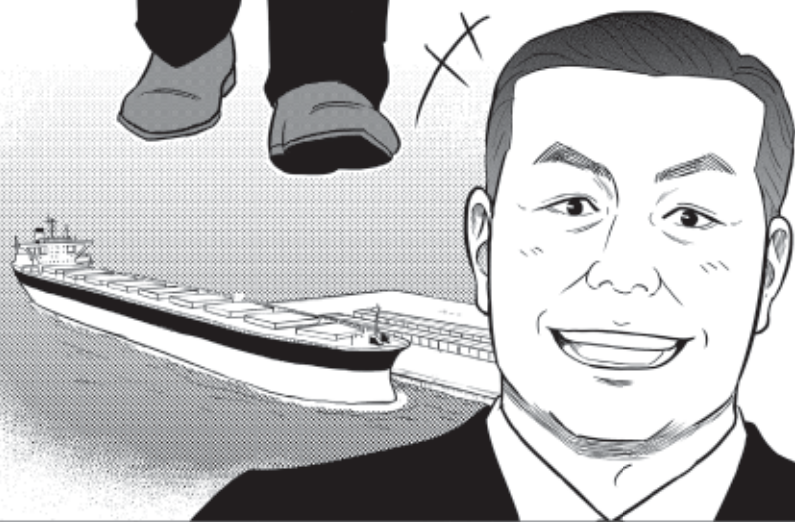


日立航空機 工場跡

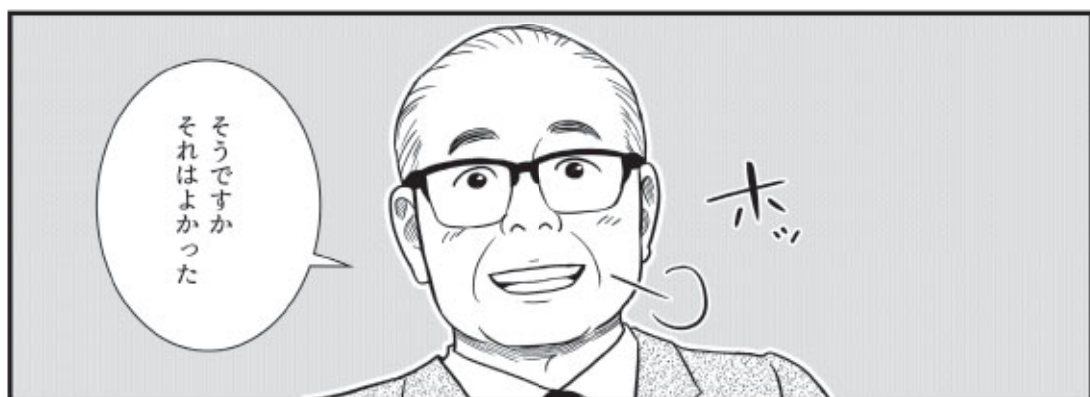


いかがでしたか?

千葉市長
宮内三朗



想像していた以上に
とてもいいところでした!
1万トン級の船が入れる港は
海底を掘ればできそうですし
土砂もそのまま埋立に使えそうです





西山さん…



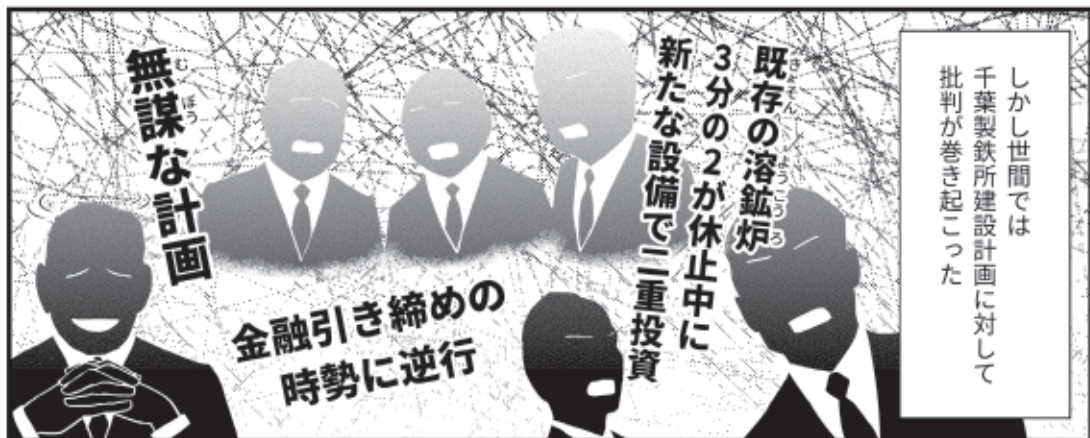
宮内市長

一緒に
頑張りましょう

ありがとうございます！
千葉市に光を

こうして
西山は宮内と二人三脚で
高炉建設計画にまい進する

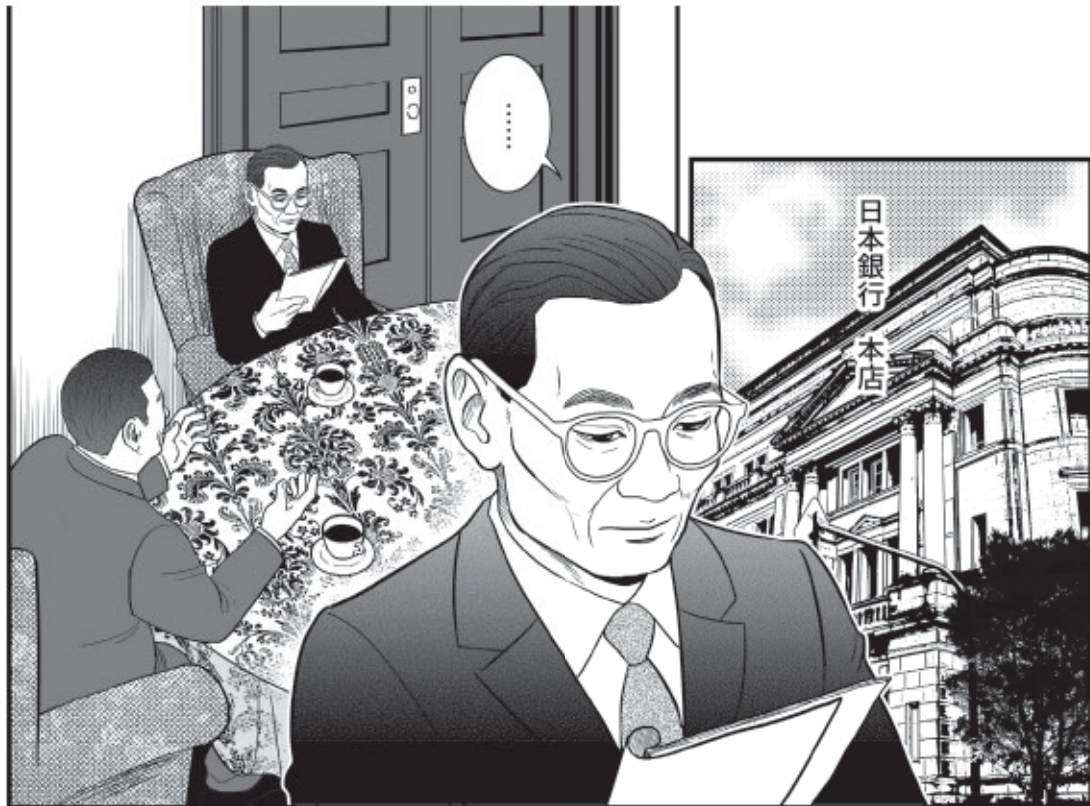
川崎製鉄誘致に成功

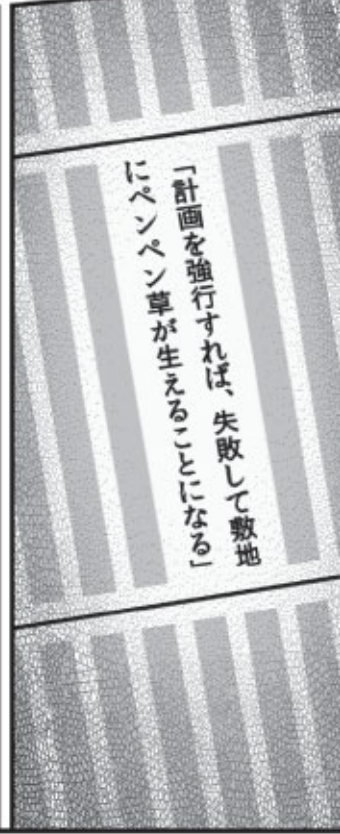
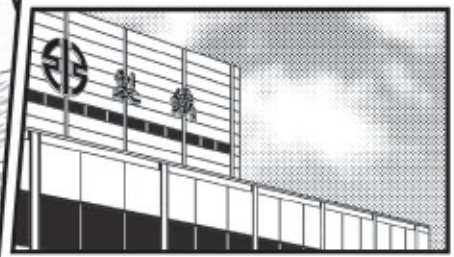


西山は政府の支援を期待して
大蔵大臣池田勇人にあいさつに行く

手短かに
たのむよ







当時
日銀の「法王」と呼ばれていた
一万田日銀総裁の反対表明は
多くの銀行に大きな影響を与えた

日銀の法王に
あんなことを
言われてしまったら

どこからも融資を
受けることなんて
できませんよ

わかっている

総裁はあんな
言いようは
していないよ

慎重にと助言して
くれたただだ

事実はどうあれ
このままではせつかくの
苦勞が水の泡です

予想通り
資金集めは
難航した

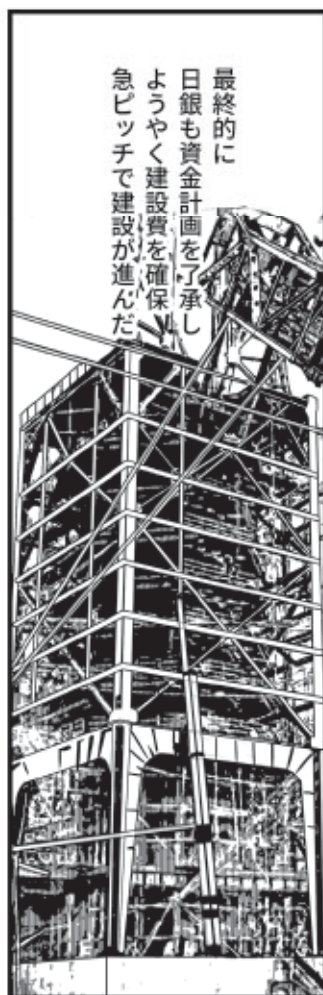
そんな中
メインバンクの第一銀行から
融資の確約を取り付ける

川崎製鉄を
見殺しにすることは
できませんよ

頭取
酒井杏之助

しかしまだ足りない
千葉製鉄所の建設は
もう着手している…

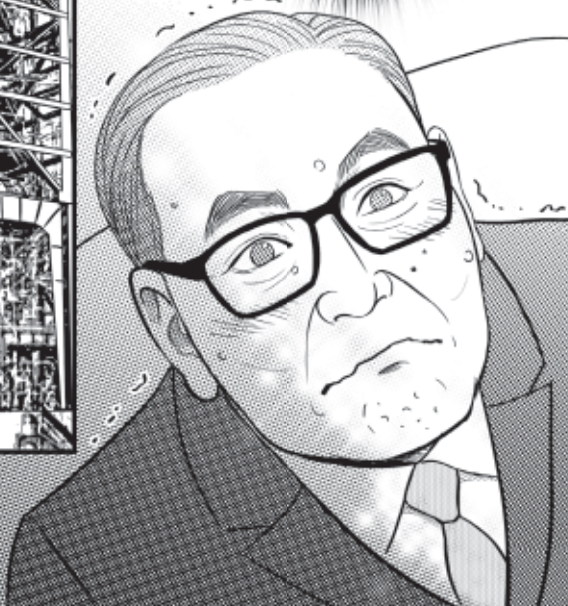
もっと資金が必要だ

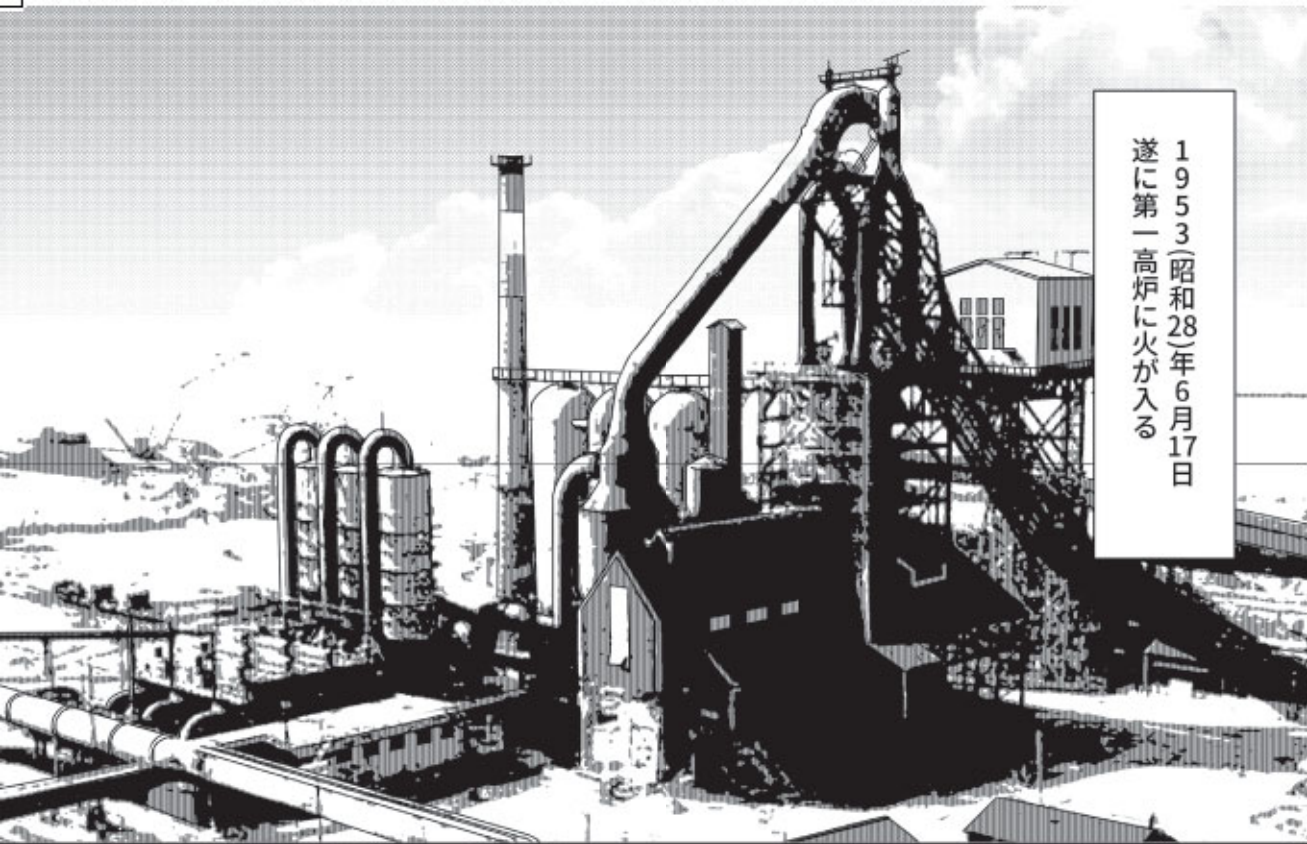


かくして
第一銀行と日本開発銀行から
支援を受けられることとなる

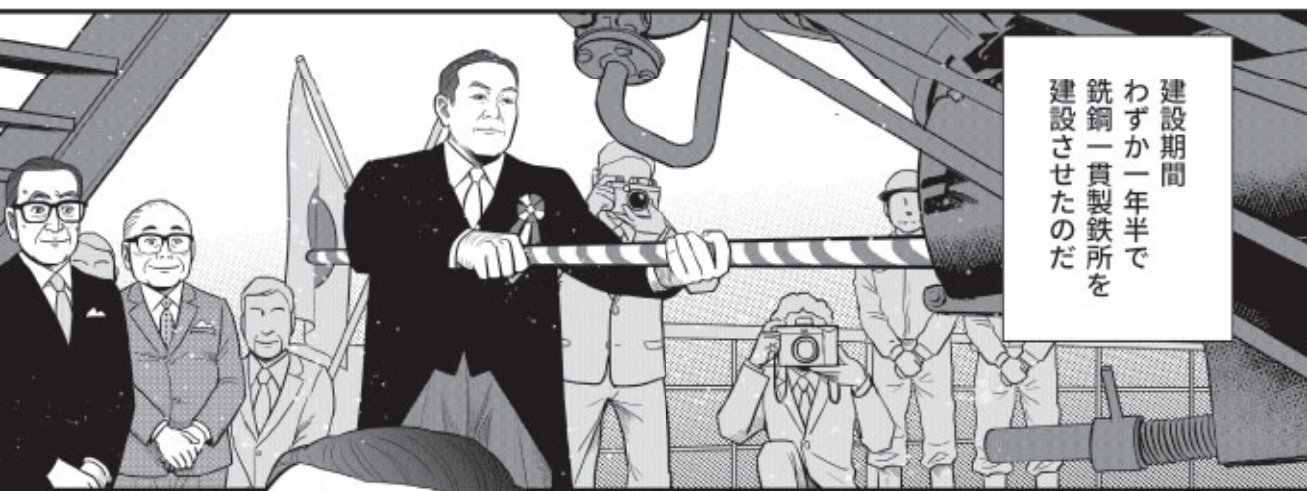
これは断るなんてできない
日本の発展のためには
この鉄が必要だ

日本の未来のために
この高炉は必要なんだ





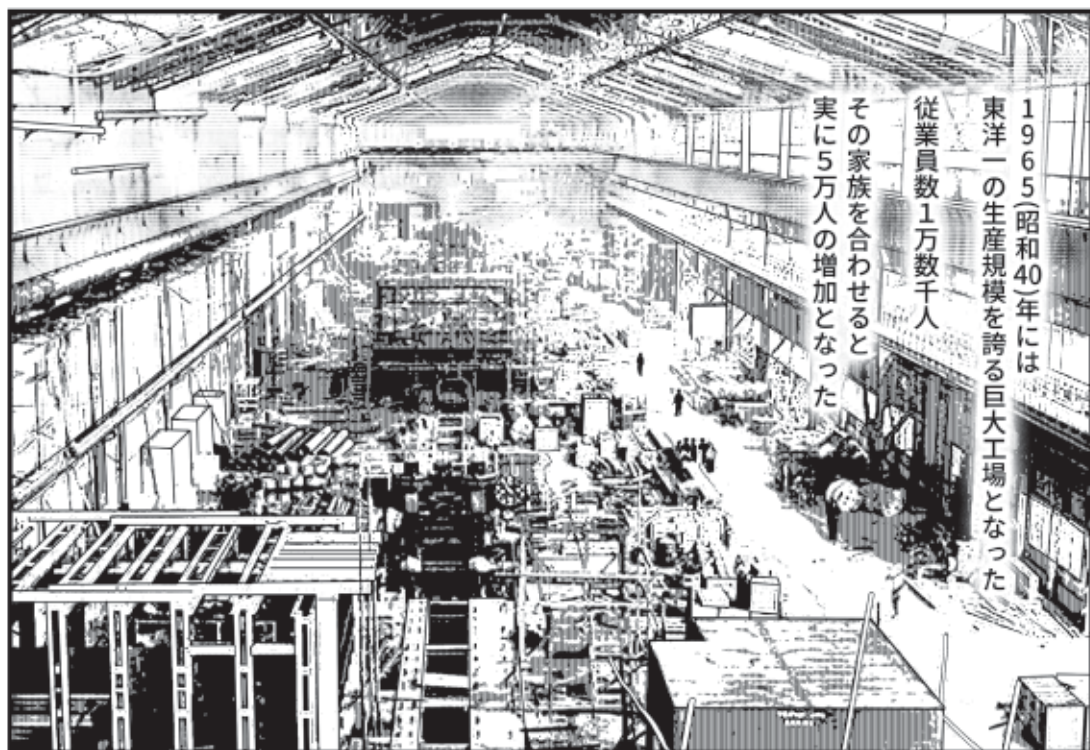
1953(昭和28)年6月17日
遂に第一高炉に火が入る



建設期間
わずか一年半で
鉄鋼一貫製鉄所を
建設させたのだ



ようやく
ここまできたが
まだまだ一里塚



1965(昭和40)年には
東洋一の生産規模を誇る巨大工場となった

従業員数1万数千

その家族を合わせると
実に5万人の増加となった



西山弥太郎という

稀代の経営者は

その後もとどまるところを
知らなかった

川崎製鉄が生み出す

高品質の鉄は

日本の産業を支え

高度経済成長の礎となった

川崎製鉄千葉製鉄所の成功は
日本の高度経済成長を支える
京葉工業地域の
出発点であり

千葉市を消費都市から
生産都市へと変容させ
復興の原動力となった

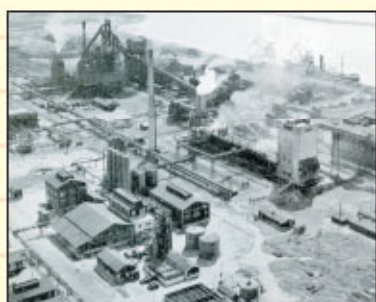
制作協力：JFEスチール株式会社

日本の高度経済成長を支えた鉄人



●高栄丸が千葉港に入港

1953年6月13日、市民の熱烈な歓迎を受けて接岸する高栄丸。



●川崎製鉄千葉製鉄所

戦後の千葉市発展の原動力となった。



●近年注目を集める工場夜景

千葉ポートタワーからの夜景は日本夜景遺産にも認定されている。

1953（昭和28）年6月17日、川崎製鉄（株）千葉製鉄所（現JFEスチール（株）東日本製鉄所千葉地区）は当時の世界最先端の技術を取り入れた千葉1号高炉の操業を開始しました。これは京葉臨海工業地帯誕生のきっかけとなり、後に市内埋立地に建設される千葉食品コンビナートや五井・市原地区の石油化学コンビナートなどとともに、日本の高度経済成長を支えていきます。

当時、製鉄の原料となる鉄鉱石を海外から受け入れ、出来上がった製品を海外へ輸出するという臨海製鉄所の考え方は、全く新しいものでした。

千葉製鉄所千葉1号高炉の火入れ式の前日、千葉製鉄所の正面岸壁に、カナダから鉄鉱石5588トン（積載した高栄丸が接岸しました。翌1954（昭和29）年に千葉港は国際貿易港として正式に開港し、今もなお世界中の国々とつながっています。



●深刻化する大気汚染

1970年頃の市内幹線道路。



●汚染指数表示板

1974年から1995年まで千葉駅前に設置。



●蘇我スポーツ公園

製鉄所の機能更新に伴って発生した用地を活用。



●JFEちばまつり

地域との共生をテーマに毎年秋に開催されている。

1960年代、高度経済成長の活気に沸いていた日本ですが、その一方で環境問題が深刻化します。国としても対策に動き始め、1967年に公害対策基本法、1968年には大気汚染防止法、1969年には公害に係る健康被害の救済に関する特別措置法が制定され、公害に対する規制の強化が図られました。

県と市は1970年に施設整備に関する協定を、次いで1971年には公害の防止に関する協定を川崎製鉄(株)や東京電力(株)と締結しました。(三者協定)

このような中、1975年に川崎町周辺の住民が、川崎製鉄の第6高炉の建設・操業中止と環境基準の遵守、患者原告への損害賠償を求め提訴した千葉川鉄公害訴訟(あおぞら裁判)は、一審判決において、大気汚染と原告患者の健康被害の因果関係を認め損害賠償を命じました。その後、東京高等裁判所に控訴され、「原告らの疾病罹患に対する排出物質のかかわりは必ずしも明らかではない」としつつ、「本件地域では過去において居住環境は良好とはいえなかったこと」などを挙げ、和解勧告により、1992年に解決金を支払う和解が成立しました。

三者協定は内容の改定を行いながら法令よりも厳しい排出基準を設定するとともに、様々な大気汚染防止対策や、環境汚染監視の仕組みの構築、地域CSR活動の積極的な展開を通じた地域住民との対話など、地域との共生を目指した取り組みが現在も行われています。